

For Discussion Purpose Only

Wellbeing-Based Policy Design (WBPD)

# OASIS研修 成果発表

# KAKOGAWA

所属組織名： 加古川市1班

氏名： 防災対策課

スポーツ・文化課

都市計画課

永吉 正樹

荻内 善雄

岸本 孝介

企画広報課

こども政策課

消防総務課

伊藤 淳平

小巻 有子

吉田 昌弘

# 加古川市民のウェルビーイング因子のSWOT分析（8領域の選択）

	T（脅威）	O（機会）
S （強み）	<p>（主観50以上、客観50未満を記載）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>文化・芸術↑ ✓</li><li>初等・中等教育→</li><li>事故・犯罪↑ ✓</li><li>公共空間↑ ✓</li></ul>	<p>（主観と客観の偏差値50以上を記載）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>健康状態→ ✓</li><li>自己効力感→</li><li>買物・飲食→</li><li>医療・福祉→</li><li>地域とのつながり↓ ✓</li><li>住宅環境→</li><li>デジタル生活↑ ✓</li></ul>
W （弱み）	<p>（主観と客観の偏差値50未満を記載）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>移動・交通↓</li><li>地域行政→</li><li>遊び・娯楽↑</li><li>雇用・所得→</li><li>事業創造→</li><li>多様性と寛容性→</li><li>教育機会の豊かさ→</li><li>環境共生↑</li><li>自然災害→ ✓</li><li>自然の恵み↑</li><li>都市景観↑</li></ul>	<p>（主観50未満、客観50以上を記載）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>子育て→ ✓</li><li>自然景観↑</li></ul>

# 市民のウェルビーイング向上のために注力すべき8つの政策領域の選択理由

## 政策領域① 公共空間

（選択理由）**幸福度と生活満足度の相関**が高く、他の因子との相関もある。また、市の取組（かわまちづくり、加古川駅周辺再整備や民間活用）も進むなか、**住環境や都市景観への波及効果も期待**できるため。

## 政策領域② 子育て

（選択理由）客観値よりも主観値が低い一方で、10代の主観値は非常に高い。生活満足度との相関もあることや、まちの活力維持に向けた若者の確保が重要であるため。

## 政策領域③ デジタル生活

（選択理由）生活利便性の向上やサービス提供における業務効率化の側面からも、これからの時代に欠かせない要素であるため。

## 政策領域④ 事故・犯罪

（選択理由）生活の安全・安心を守る基本的な取組である中、見守りカメラの設置効果から主観値が高い。負のイメージを払拭するためにも、市民自らの取組の啓発を含めて、継続した取組が重要であるため。

## 政策領域⑤ 自然災害

（選択理由）主観値・客観値ともに低い状況にあるものの、災害への備えは重要であり、行政・市民ともに発災時の対応によってはウェルビーイングを大きく損なうおそれがあるため。

## 政策領域⑥ 地域とのつながり

（選択理由）生活満足度との相関が高い要素であり、主観値は高いものの、若い世代では低いため、町内会加入率の低下も予想される。地域とのつながりの希薄化が進む中で、高齢者の単独世帯も増加していることから、近隣での助け合いの輪を維持することが重要であるため。

## 政策領域⑦ 健康状態

（選択理由）幸福度との相関が高く、主観値も高い。心身の健康は生活基盤でもあり、高齢化が進む中、健康の保持・増進が重要となるため。

## 政策領域⑧ 文化芸術

（選択理由）客観値が低い、主観は高い。鑑賞・発表の場としての公共空間の利活用が想定され、今後の施設整備による効果を期待するため。



# 選択した8つの政策領域に関する政策介入効果（インパクト）の計画

（★＝7年後の理想のゴール、●＝3年後に達成すべき中間地点的なゴール）

主観・客観  
散布図

主観

● 2024年度  
○ 2023年度

客観

● 2025年6月公開  
○ 2024年3月公開

自治体

加古川

28 兵庫県

兵庫県加古川市

回答者数  
1,650

性別

13 (0.8%)

693 (42.....)

944 (57.2%)

性別

● 男性

● 女性

● その他・...

年代

その他・... 4

70代 419

60代 233

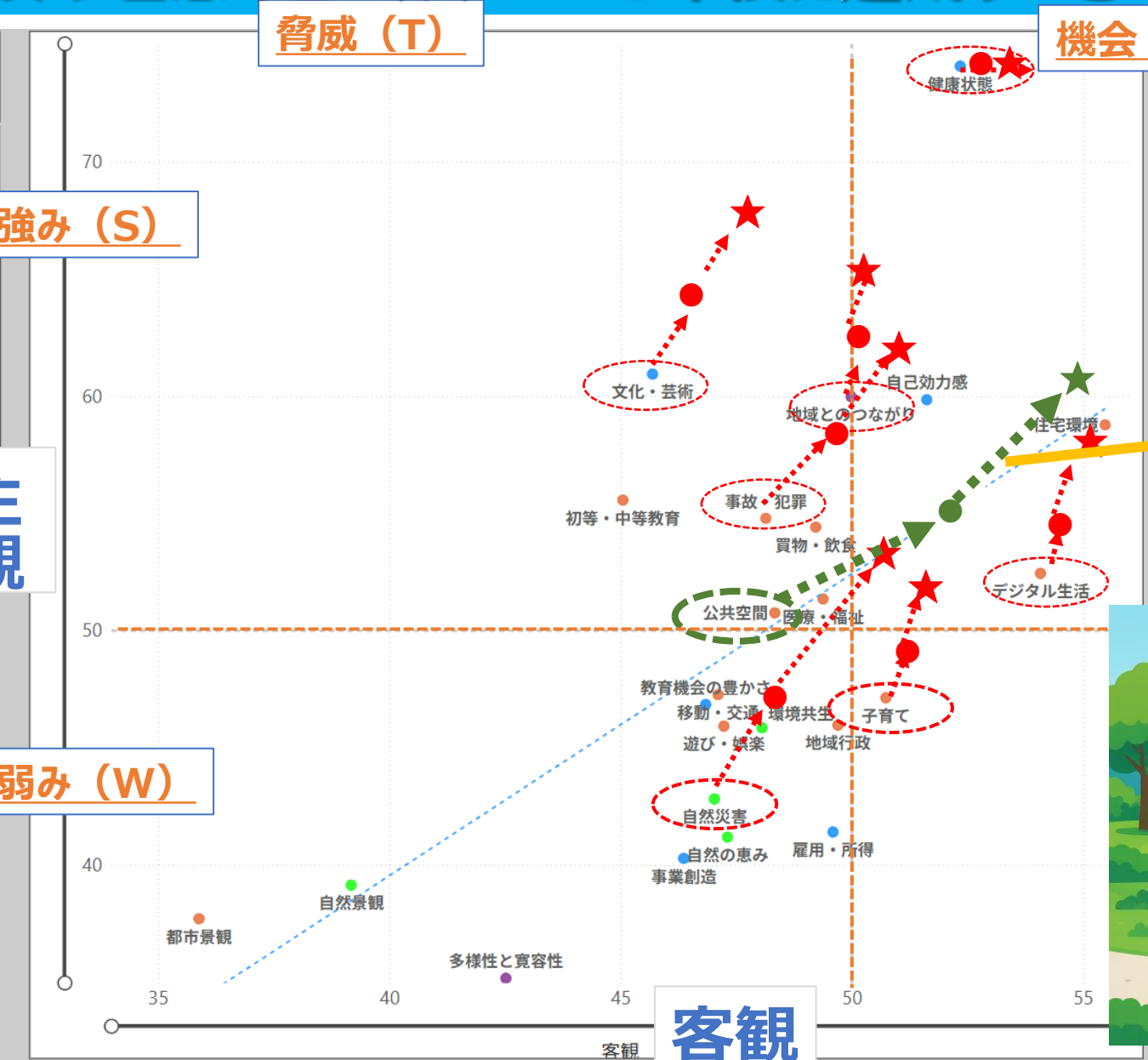
50代 248

40代 280

30代 229

20代 191

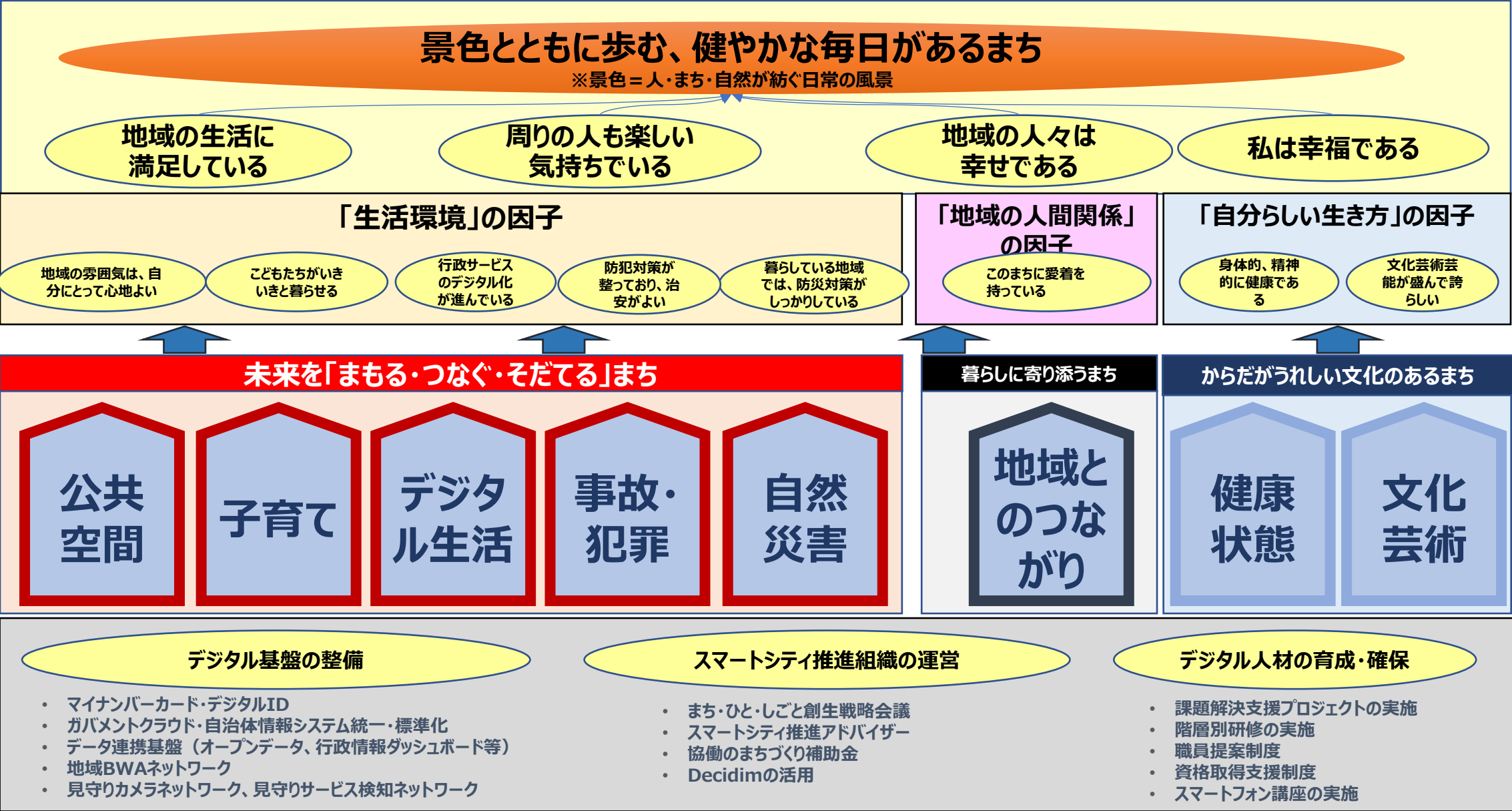
10代 46



	現状	3年後	7年後
主観	50.8	→ 55.0	→ <b>60.0</b>
客観	48.3	→ 53.0	→ <b>56.0</b>



# 市が実践すべきウェルビーイング政策の全体を整理した「統合マップ」



ウェルビーイング・インパクトの視点

政策の視点

デジタルと人の共創基盤の視点

# 市が実践すべきウェルビーイング政策の全体構造の説明

**景色とともに歩む、健やかな毎日があるまち**

※景色＝人・まち・自然が紡ぐ日常の風景



人と人とのつながりや、人・まち・自然が生み出すたのしさが、未来のまちの景色を彩る中で、それぞれが心地よく・健やかに一日一日を過ごすことができるまち

**未来を「まもる・つなぐ・そだてる」まち**



心地よさに包まれる安心な空間の中で未来（こども）を育てるまち

**暮らしに寄り添うまち**



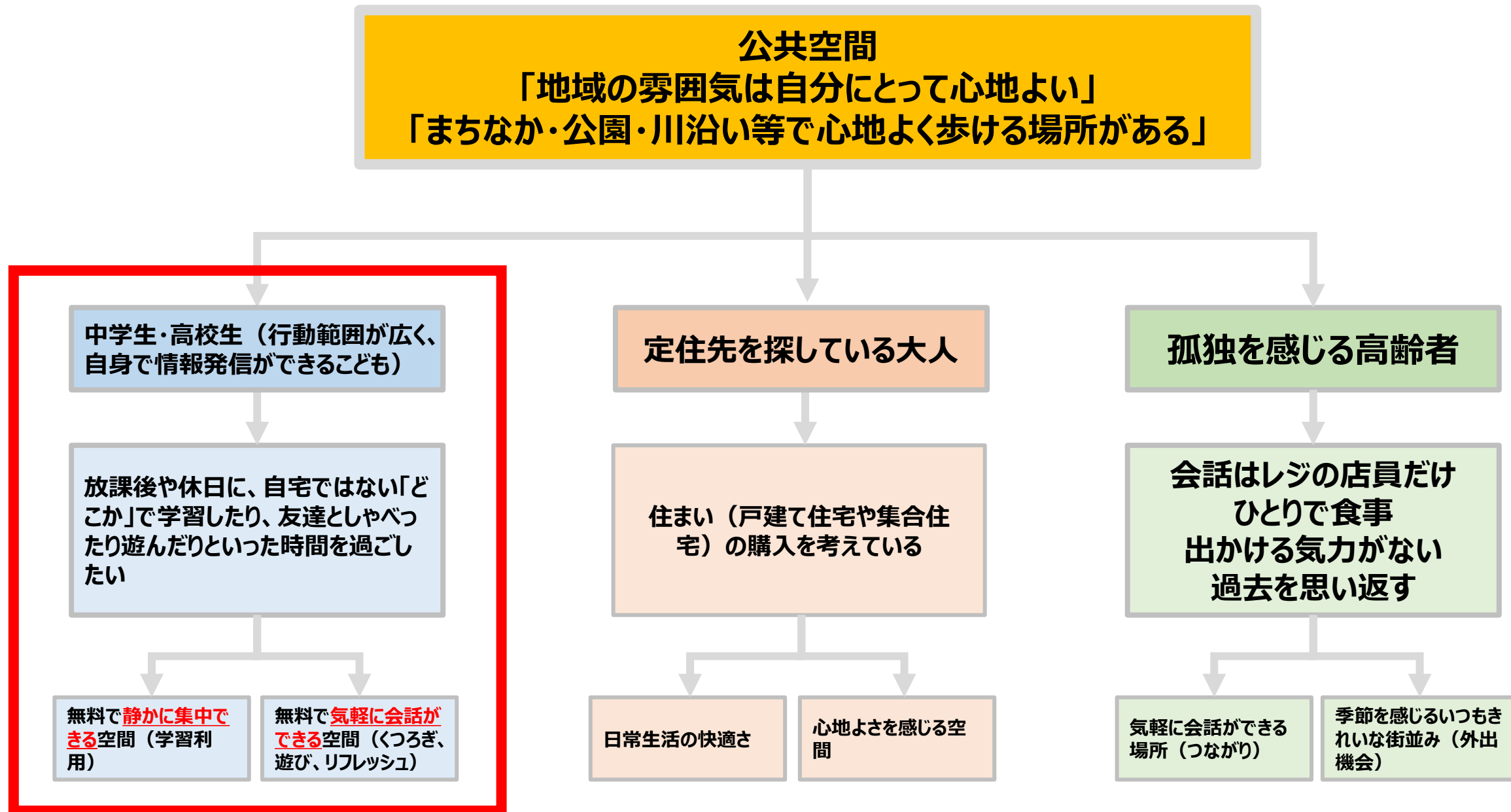
適度な距離間で支え合うまち

**心も体もうれしいまち**



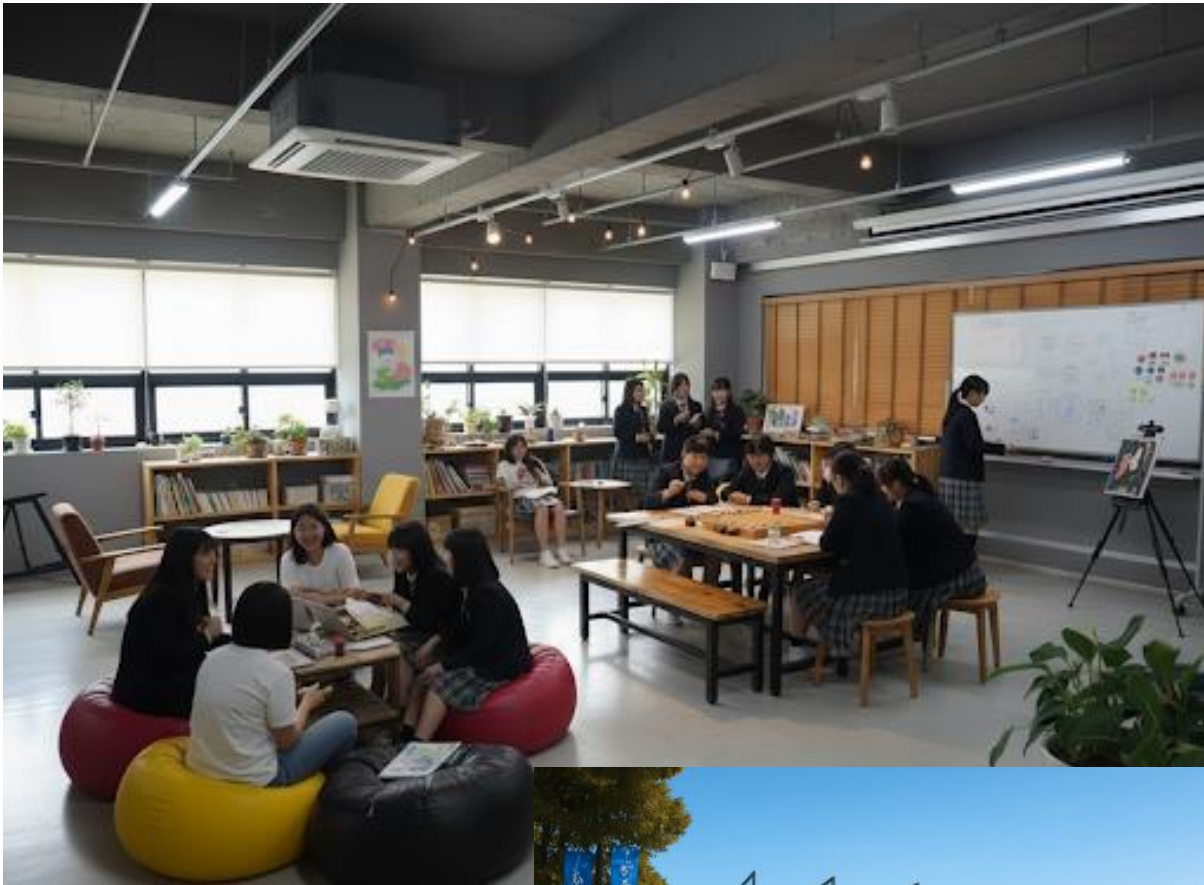
心と体の充実を感じる楽しさがあふれるまち

# インパクトを最大化政策に関するペルソナ・ロジックツリーを選択する





# 中高生が気軽に集う場所があるまちのイメージ



SDGs 未来都市  
かこがわ

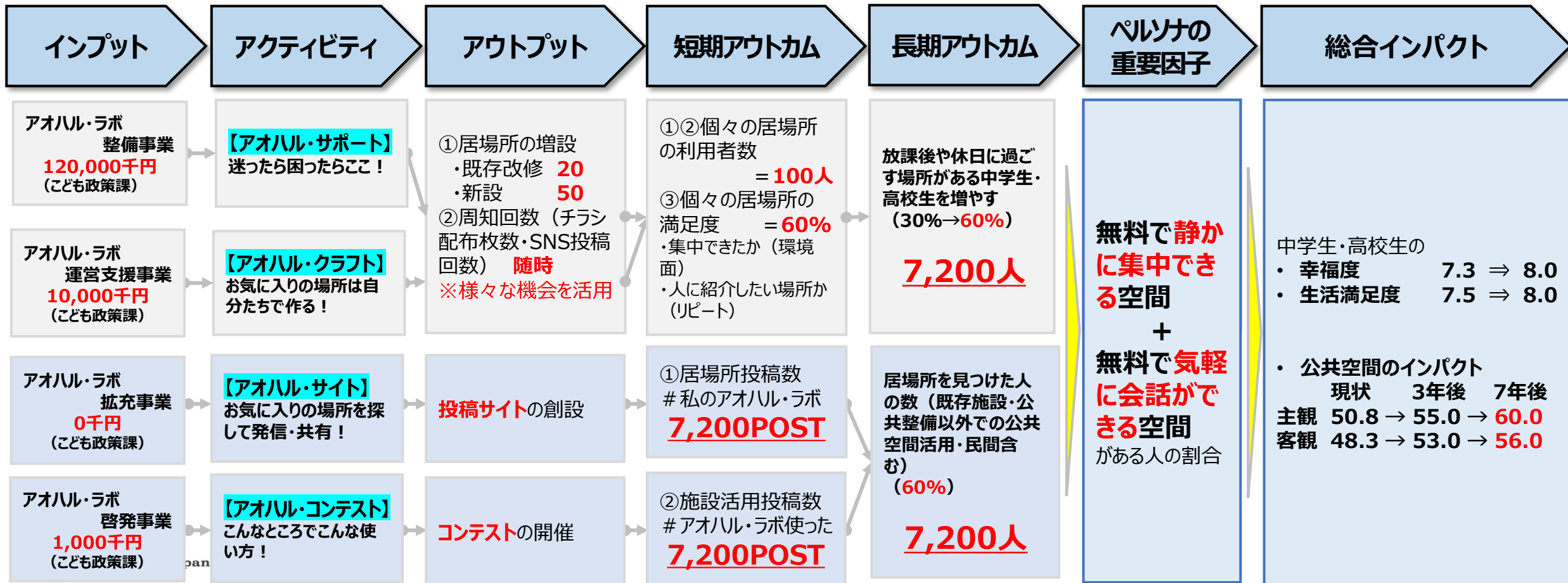




【公共空間】  
「地域の雰囲気は**自分にとって心地よい**」  
「まちなか・公園・川沿い等で**心地よく**歩ける場所がある」

【ペルソナ】  
中学生・高校生（行動範囲が広く、自身で情報発信ができるこども）

現 状	放課後や休日に、自宅ではない「どこか」で学習したり、友達としゃべったり遊んだりといった時間を過ごしたい	将来 像	【アオハル・ラボの広がり】 7年後、中高生は自分に合った <b>お気に入りの場所を見つけ</b> 、それらの場所は <b>先輩から後輩に広がる</b> など、 <b>みんなの居場所</b> として親しまれる状態になっている
--------	---	---------	--



# 市独自の質問項目や客観指標として追加すべきもの（セカンドレイヤー）

## 【市独自の質問項目として追加すべきもの】

- ①「放課後や休日に過ごす場所があるか（中学生・高校生）」
- ②「こどもが放課後や休日に過ごす場所があるか（保護者）」
- ③「居場所の満足度（集中できたか、人に紹介したい場所だったか、居心地は良かったか）」

## 【市独自の客観指標として追加すべきもの】

- ①居場所（アオハル・ラボ）の数
- ②個々の居場所（アオハル・ラボ）の利用者数
- ③居場所（アオハル・ラボ）投稿数
- ④施設活用事例の投稿数

# ご清聴ありがとうございました

加古川市1班 2025



# KAKOGAWA